

修了、紺碧賞、おめでとうございます!

～喜びの声、お祝いの声～

修了生のメッセージ

このたび修了された197名の中から、3名の方より喜びのメッセージをお寄せいただきました。

学ぶ喜びを心の支えに

佐藤 素子さん (1988年度入会)

25年前、子どもに「家族の法律」を勧められて通い始めた早稲田大学エクステンションセンター。2年目に受講した岩田孝先生「仏教の心の世界を探る」が学ぶ喜びの原点でした。岩田先生の講座を10年近く受講し、良き友と出会いました。友達とは学ぶジャンルが違って、知の刺激をたくさん受けました。1999年に「絵手紙講座」を受講したことにより、一番苦手としてきた絵を描くことが学ぶ喜びになり、今は出口雄大先生の「写実水彩講座」を受講しています。病気や骨折でのブランクもありましたが「元気になれば早稲田で学べる」が心の支えだった気がします。

紺碧賞受賞者のメッセージ

受賞された46名の中から、3名の方よりメッセージをお寄せいただきました。

「勉強」と「青春」を謳歌

矢口 正勝さん (2007年度入会、2009年度修了)

「生勉強、一生青春 (相田) みつお」は私の書齋に架かる色紙額。まさに早稲田大学オープンカレッジは「一生青春」を支える大黒柱です。日本中世史・近世史の講座を中心に受講しています。半世紀前、歴史の教科書で習ったことと全く異なる最新の研究成果を伺うことが醍醐味です。「なぜ、そうなのか」の質問に的確に答えてくれるのもありがたいことです。そして友との交流。私は谷口先生の「赤穂事件」の講座を縁に、Uさんをリーダーとする「モーモー会」に参加して、赤穂事件ゆかりの史跡巡りを楽しんでいます。紺碧賞ありがとうございます。「一生勉強」この道を歩み続けます。

センター所長よりメッセージ

エクステンションセンター所長

加藤 哲夫



修了、そして紺碧賞おめでとうございます。多くの会員の皆さんが学習を継続し、この春を迎えられるのを拝見し、私たちスタッフはととてもうれしく思っております。会員お一人おひとりが十分に学ぶことができたか、スタッフはいつもその環境づくりを考えております。皆さんにとってこのエクステンションセンターで学ぶことが生活の中心にあるよう、これからも心掛けたいと考えています。これからも着実に学びのステージを上っていかれることを念じます。受講生の皆さんのますますのご活躍を祈ります。

講師よりメッセージ

早稲田大学名誉教授 岸 陽子

2012年度ご担当講座

- 文学・芸術にみる「満洲国」
- 中国語 中級A



修了、そして紺碧賞おめでとうございます。三々五々、あるいは一人黙々と早稲田のオープンカレッジに通う皆さんを見かけると、中国南宋の詩人・陸游の詩の一句が胸をよぎります。

「群れ嬉^{たわむ}れて瓦^{がとう}塔^をを重ね、独り立ち^{ぼんち}て盆池^にに照らす。

更に残書^{さしはき}を挟んで読めば、渾^すべて上学の時の如し」(「書適」)

ときに仲間と楽しみ、ときに一人思索し、学び続ける人生の豊かさ……。旺盛な知的好奇心と未知の世界への憧れを持ち続ける受講生の皆さんの目の輝きに励まされて、私も学び続けようと思うのです。

早稲田大学教授 町田 和彦

2012年度ご担当講座

- 環境と人間一人人間の健康と生活に与える環境の影響について考える一



修了生の皆さん、紺碧賞を受賞された皆さんおめでとうございます。早稲田大学オープンカレッジで、予防医学の視点から感染症・環境問題、人の一生に関わる健康・福祉・医療の問題など幅広い分野の講座を担当し、17年が経ちました。この間、若い学部学生以上の熱心さで受講されている皆さんからパワーをいただきつつ、楽しく授業を続けさせていただいてきました。これから私たちを迎える世の中は、これまで以上に厳しい現実となるかもしれません。それに向かっていくためには、常に新しい方策を追求していかななくてはならないと思います。私自身も皆さんとともに、これからもこの講座の発展に寄与すべく頑張っていこうと思っています。

オープンカレッジ修了・紺碧賞について

オープンカレッジの各講座には大学正課授業とは別に、独自の単位が設定されています。76単位を取得すると「修了生」となり、「オープンカレッジ修了証書」が授与されます。修了生は以降の会員更新料が不要となり、また、希望される方を当センター所長が本学の「推薦校友」に推薦いたします。

また、修了後も継続してご受講される皆様を応援する制度として、150単位を取得された方に対して「オープンカレッジ紺碧賞」を設けています。エクステンションセンターはこれまで同様、生涯かけての「学びの場」を提供し、皆様の果てなき学習意欲を応援いたします。

自分の人生を創り上げる

白井 まさゑさん（2007年度入会）

退 職後、日頃、知識・理解に乏しいわが身を恥じて、興味・関心が薄かった自然科学について学びたいという欲求が生まれました。初めに、目には見えない海の中、次に陸の中、続いて大気・宇宙へと、果てしなく知的探究心は広がっていききました。特に2011年3月11日の東日本大震災に際しては、その構造的な原因について学び、防災の心構えを新たにしました。講座「大地の自然史」では、大規模な大地の変化があった痕跡を、日本のみならず台湾や韓国まで足を伸ばして巡検し、普段の旅行とは違った視点でわれわれの住む地球への思いを深めていっています。今後は、「知は力なり」を実証すべく、あふれる情報を整理して自らを切磋琢磨し、輝かしい世界を、自分の人生を創り上げていきたいと願っています。

学び続けられる楽しさ喜び

田村 智さん（2009年度入会）

5 年前から自由な時間が持てるようになって、1年をかけて第二の人生設計を模索しました。これまで自発的に学習をした憶えがなく、入試や仕事面と進路、生活の手段のために、仕方なく勉強してきたのが実情です。その壁がなくなったとき、何でも学びたいという知的好奇心が湧いてきました。そこへオープンカレッジの存在を知りました。受講制約や試験がなく、大学施設で現職講師から学べて、さらに膨大なジャンル、講座から自己管理で選択自由に何でも学べるという設立趣旨・精神に大いに感謝・敬意し、今は「学び続けられる楽しさ喜び」を満喫しています。今後も諸先輩に見習い、生涯教育を続けたいと思います。

進取と自由の雰囲気の中で

木村 修さん（1983年度入会、2005年度修了）

知 る喜び、学ぶ楽しさから、いつの間にか入会して30年になりました。それ以前に受講した経営科学の講座を含め、まさに生涯学習を進める早稲田大学で、その恩恵に長く浴し感謝しています。古代史への興味から入りましたが、次第に興味は新しい世界に広がり、時間的余裕がある定年後は好奇心のまゝに今まで触れる機会がなかった新しい分野を垣間見る心境で、広く受講しています。おかげで文楽、歌舞伎など、これからの楽しみもできました。進取と自由の雰囲気の中で学ぶ喜びは歳を重ねても大きく、これからも力まず知る喜びを味わいたいと思います。

「晴」の場で学び、心身を磨く

中島 千恵子さん（1987年度入会、1994年度修了）

紺 碧賞のお電話に感激、翌々日の隕石落下に再度びっくりいたしました。早稲田大学オープンカレッジには、会社の経理業務を定年退職し、先輩の勧めもあり入会しました。翌年には大学の科目等履修生にもなり、並行して学び続けました。印象深い講座は上坂先生の「源氏物語」、村山先生の「論語」、吉村先生の古代エジプトの旅では、ピラミッドに魅了されました。科目等履修生では、日本古典、古文書、日本思想史、変体仮名、芸術論、言語学などを受講し、特に柴田先生の書道史では、宮内庁書陵部の歴代天皇宸翰展を拝見しました。亀の歩みのような私です。日頃の褻（ハレ）の生活から晴を求めてExtensionで心身を磨きましょう。師と交友に感謝し、エクステンションセンターの発展をお祈り申し上げます。